

I 日本語・日本事情教育：全学教育科目  
(年次報告(平成26年度後期・27年度前期))

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 原沢, 伊都夫 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00009658">https://doi.org/10.14945/00009658</a>

〈今は〉

Q1：日本人の話していることがわかる

	よく	だいたい	半分ぐらい	あまり	全然
日本語Ⅰ	1	2	1	1	
日本語Ⅱ		3	2		

Q2：話したいことを、日本語で話すことができる

	全部	だいたい	半分ぐらい	あまり	全然
日本語Ⅰ		1	3		
日本語Ⅱ		2	2	1	

〈その他 全体の感想〉

Q1：この3週間の静岡大学サマースクールはどうでしたか。

	非常に満足	満足	普通	やや不満	不満
日本語Ⅰ	3	1			
日本語Ⅱ	1	3	1		

## 【総 評】

今年度は、事前配布するガイドブックに宿舍の写真や近所のスーパーの値段などを載せて送付するといった工夫をした。日本人学生有志によるサマースクールボランティア（通称：サマボラ）が日常的に留学生のサポートにあたってくれたが、プログラム終了後も観光を続け、静岡に滞在する留学生に宿泊先を提供するなど、最初から最後まで全面的に支援を行ってくれたのが頼もしかった。二泊三日のホームステイは、多くの学生が親切にしてもらったようだが、やはり昨年同様、留学生の受け入れに不慣れな家庭があり、受講者が不満をもつ一面もあった。

さらに、今年度から、受け入れ対象校をカセサート大学（タイ）に広げたことによってにぎやかなプログラムとなった。ただし、韓国、タイ、アメリカの学生が国ごとに分かれてしまい、それぞれがうまく混ざり合って交流する雰囲気が薄かったのは残念な点である。

今回のサマースクールの参加学生1名が、交換留学生として静岡大学で再び勉強していることは幸いである。

## 全学教育科目

原沢 伊都夫

平成26年度後期は両キャンパスで1年生向けに日本語Ⅲ・Ⅳ、2年生向けに日本語Ⅵが開講された。25年度より、新しいカリキュラムが始まり、日本事情への日本人学生の履修が可能になった。27年度前期は両キャンパスで1年生向けに日本語Ⅰ・Ⅱ、2年生向けに日本語Ⅴが、浜松キャンパスで1年生向けに日本事情が開講された。日本事情は学際科目

に読み替えられるため、2年生の学際科目の枠の中で開講されるが、浜松では1年生のときに日本人と知り合うきっかけにしたいということで、1年次の開講となっている。日本語・日本事情科目はすべて選択科目であるが、日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲについては日本語力が基準を超えていると判断された場合以外は原則として受講することとなっている。なお、学生数に\*印のある科目はセンター以外の教員が担当している。

26年度後期受講生数

科目名	必修・選択の別	受講学年	受講生数 (静岡キャンパス)	受講生数 (浜松キャンパス)
日本語Ⅲ	選択	1年	20	7***
日本語Ⅳ	選択	1年	10**	7
日本語Ⅵ	選択	2年	4	7
日本事情	選択	1・2年	37	—

27年度前期受講生数

科目名	必修・選択の別	受講学年	受講生数 (静岡キャンパス)	受講生数 (浜松キャンパス)
日本語Ⅰ	選択	1年	24	15
日本語Ⅱ	選択	1年	24**	15*
日本語Ⅴ	選択	2年	14	5*
日本事情	選択	1・2年	—	23

\*はグローバル企画推進室教員が、\*\*は教育学部教員が、\*\*\*は非常勤講師が担当